

平成22年度 学校関係者評価書

平成23年3月4日
アソカ学園朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	おおむね園の教育方針を理解し、毎日の保育に生かすことを心掛け実行している。
②保育のあり方 ・幼児への対応	一人ひとりの子どもを大切にし、子どもの立場になった視点で保育をしている。
③教師として資質 能力、適正等	教師としての良識を持ち行動する姿が見られ、組織の一員としても行動できている。
④保護者への対応	保護者の意見、要望などについては適切な対応をし、保護者も園、職員に対して協力的である。
⑤地域の自然や社会との 関わり	音楽発表会に地域住民を招待したり、近隣の中高生との関わりがある。地域の自然との関わりは少ない。
⑥研修と研究	研究指定園を受けて、職員で話し合いを実施している。教育課程をテーマとした研修に取り組んでいる。
⑦外部アンケート	回答率も86%になり、回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

終礼等を通して職員間で話し合う時間を作ることで、活動に対する共通理解を得ることができるようになってきている。また、子どもの立場に立ちながら教育活動を行えるよう、今後も努力をしてゆくむねを確認。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解を図る	新教育要領の理解を全教職員で理解し、毎日の保育に添わせるように話し合いを行っていく
園庭での園児の遊び・安全管理の共通理解	子どもたちの遊び方、安全管理について全教職員で再確認をしながら話し合いを多くしていく。過去にあった怪我などの事故報告書を教訓とし、職員の意識を高める。
保護者に幼稚園の活動をより良く知ってもらうための広報活動の充実	幼稚園で園児が何をしているかを広報することで、幼稚園で育つ子どもの姿等を知ってもらい、子育て支援活動になるように配慮していく。保護者との意思の疎通をより円滑に行えるよう、一層の努力をする。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

いろいろな課題がある中、全ての件（問題）に対しておおむね達成されていると思います。

今後も、より一層よい園を目指し、職員・保護者双方での取り組みを希望致します。

平成22年度 自己評価書

平成23年3月10日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に
- 望ましい生活習慣の身についた子に
- 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に
- 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況
① 保育の計画性	開園より60年の歴史の中で培われた“幼児期にぜひ育てたい心と体の育ち”を見据えながら経験ある教師のチームワークで目標に向かって子どもが大きく成長する事を願いつつ、一人ひとりに合った言葉掛けなど、援助の工夫を重ねている。
②保育のあり方 幼児への対応	時間を見つけて放課後、全体研修の会をもっている。各学年で次週の保育について話し合い、幼児への対応も意見交換し進めている。
③教師として資質 能力、適正等	個人的にバラつきはあるが、自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、自らのパーソナリティーにまで入れこんでいる。
④保護者への対応	アンケート集計を取ったところ、たいへん良い結果が表れてきた。保護者の意見、要望などについては対応を全職員で検討し対応している。今後も保護者との連絡を密に行い信頼関係を築いていきたい。
⑤地域の自然や地域との関わり	浜松駅に一番近い園で、自然は少ないが年間計画の中にバスを利用したの園外保育、自然観察、季節ごとの近くの公園への散歩など、時間をとって実行している。
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であり、マンネリズム打開のため他のクラス参観、教師の交換など研究の手立ても日々のクラス運営の中に含まれている。余裕の時間を設けて短時間ではあるが、個人研究のすすめと研修手段を全教員と打ち合わせを行い、年間目標に沿った個人研究をすすめ、年度末にはアソカ6ヶ園の代表教師が個人発表をする場を設けている。

⑦外部アンケート	回答率が89%になり、回答内容も概ね良好である。
----------	--------------------------

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子どもの心がわかる教師と教師の思いが理解できる子どもとの間にすばらしい“心の通い”が生まれ、押し付け保育をなるべく無くし、子どもの自主活動を教師が見守る形の保育がすすめられた。

また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、絶えず新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。 園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるよう環境作りを行う。
物を大切にす	先ず教師自身が物を大切にする行動に心がけ、ひとつの輪ゴムも拾い、廃材や新聞紙を使った製作を取り入れるなど、素早くエコの心を身につけていた。
心の通い合い	担任だけでなく、全職員が園児一人ひとりを見つめ良い所を認めていけるよう、園庭あそび、通園バス、学年での活動や担任交代などで園児と触れ合い、様子を伝えあっている。 また、園児も担任以外でも気軽に接することが出来るよう、環境作りを行っている。

平成22年度 アソカ学園/朝田幼稚園

事業報告

*幼稚園での園児の活動を理解してもらう為の園便りの充実

*防災・防犯に関する備品・組織などの再整備

*園での活動を広く地域に知ってもらうためのアソカの園・HPの充実

実施事業の概要は以下の通りである。

実施日	事業	参加者	
		保護者	園児
4月 5日	始園式：対面式（桃組・星組の保護者の参加）	185名	187名
8日	入園式（新入園児と保護者）	130名	96名
21日	父母の会第一回理事会	25名	
26日	春の親子交流会（年長）	100名	100名
27日	春の親子交流会（年中）	80名	80名
28日	春の親子交流会（年少）	93名	93名
5月 20日	アソカ学園父母の会総会	87名	
6月 19日	運動会	600名	282名
	運動会：招待児	75名	70名
7月 1日	父母の会サークル活動（アロマ）	30名	
2日	じゃがいもパーティー		280名
7日	招待児：七夕集会	72名	72名
13日	交通安全：星		94名
27日	クラス懇談	185名	
7月 31日	夏祭り	560名	280名
	夏祭り：招待児	74名	74名
9月 27日	ゆうぎ会衣装打ち合わせ（桃）	101名	85名
28日	ゆうぎ会衣装打ち合わせ（星）	100名	103名
29日	ゆうぎ会衣装打ち合わせ（梅）	99名	98名
10月 10日	ゆうぎ会	830名	286名
	ゆうぎ会：招待児	45名	45名
23日	浜私幼親子ふれあいフェスティバル	150名	150名
26日	ミニミニ運動会：星・桃	190名	180名
27日	ミニミニ運動会：梅	150名	95名
11月 25日	父母の会サークル活動（リース作り）	23名	
12月 4日	作品展	600名	286名
	作品展：招待児	45名	45名
9日	餅つき	40名	261名
1月 14日	マラソンキッズ	320名	277名
25日	体験入園（平成23年度年少組入園者）	57名	57名
2月 3日	招待児：節分	60名	58名
4日	父母の会サークル活動（フラダンス）	25名	
9日	体験入園（平成23年度年少組入園者）	58名	58名
16日	アソカ学園ドッジボールフェスティバル	60名	102名
15日	参観会：星	109名	102名
21日	参観会：桃	90名	86名
22日	体験入園（平成23年度年少組入園者）	63名	63名
24日	参観会：梅	95名	93名
3月 7日	父母の会最終理事会	25名	
2日	体験入園（平成23年度年少組入園者）	63名	63名
16日	卒園式	210名	103名
19日	アソカ学園謝恩会	23名	

平成22年度 学校評価書

平成23年3月10日

アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に
- 望ましい生活習慣の身についた子に
- 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に
- 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況
① 保育の計画性	開園より60年の歴史の中で培われた“幼児期にぜひ育てたい心と体の育ち”を見据えながら経験ある教師のチームワークで目標に向かって子どもが大きく成長する事を願いつつ、一人ひとりに合った言葉掛けなど、援助の工夫を重ねている。
②保育のあり方 幼児への対応	時間を見つけて放課後、全体研修の会をもっている。各学年で次週の保育について話し合い、幼児への対応も意見交換し進めている。
③教師として資質 能力、適正等	個人的にバラつきはあるが、自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、自らのパーソナリティーにまで入れこんでいる。
④保護者への対応	アンケート集計を取ったところ、たいへん良い結果が表れてきた。保護者の意見、要望などについては対応を全職員で検討し対応している。今後も保護者との連絡を密に行い信頼関係を築いていきたい。
⑤地域の自然や地域との関わり	浜松駅に一番近い園で、自然は少ないが年間計画の中にバスを利用したの園外保育、自然観察、季節ごとの近くの公園への散歩など、時間をとって実行している。
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であり、マンネリズム打開のため他のクラス参観、教師の交換など研究の手立ても日々のクラス運営の中に含まれている。余裕の時間を設けて短時間ではあるが、個人研究のすすめと研修手段を全教員と打ち合わせを行い、年間目標に沿った個人研究をすすめ、年度末にはアソカ6ヶ園の代表教師が個人発表をする場を設けている。

⑦外部アンケート	回答率が89%になり、回答内容も概ね良好である。
----------	--------------------------

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子どもの心がわかる教師と教師の思いが理解できる子どもとの間にすばらしい“心の通い”が生まれ、押し付け保育をなるべく無くし、子どもの自主活動を教師が見守る形の保育がすすめられた。

また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、絶えず新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。 園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるよう環境作りを行う。
物を大切にす	先ず教師自身が物を大切にす行動に心がけ、ひとつの輪ゴムも拾い、廃材や新聞紙を使った製作を取り入れるなど、素早くエコの心を身につけていた。
心の通い合い	担任だけでなく、全職員が園児一人ひとりを見つめ良い所を認めていけるよう、園庭あそび、通園バス、学年での活動や担任交代などで園児と触れ合い、様子を伝えあっている。 また、園児も担任以外でも気軽に接することが出来るよう、環境作りを行っている。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・ 幼稚園と保護者との連携（信頼）ができているように思う。今後も一人ひとりを大切にすていく園であつて欲しいと思います。
- ・ 近所の方々との関わりを大切にすて、季節ごとの行事を続けてほしいと思います。“今どき”という言葉をよく耳にすしますが、いろいろな世代の方と接するのち良いことと感じます。人は代わつても、心が変わることのないことを願っています。

平成22年度 自己評価書

平成23年3月10日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に
- 望ましい生活習慣の身についた子に
- 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に
- 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況
① 保育の計画性	開園より60年の歴史の中で培われた“幼児期にぜひ育てたい心と体の育ち”を見据えながら経験ある教師のチームワークで目標に向かって子どもが大きく成長する事を願いつつ、一人ひとりに合った言葉掛けなど、援助の工夫を重ねている。
②保育のあり方 幼児への対応	時間を見つけて放課後、全体研修の会をもっている。各学年で次週の保育について話し合い、幼児への対応も意見交換し進めている。
③教師として資質 能力、適正等	個人的にバラつきはあるが、自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、自らのパーソナリティーにまで入れこんでいる。
④保護者への対応	アンケート集計を取ったところ、たいへん良い結果が表れてきた。保護者の意見、要望などについては対応を全職員で検討し対応している。今後も保護者との連絡を密に行い信頼関係を築いていきたい。
⑤地域の自然や地域との関わり	浜松駅に一番近い園で、自然は少ないが年間計画の中にバスを利用したの園外保育、自然観察、季節ごとの近くの公園への散歩など、時間をとって実行している。
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であり、マンネリズム打開のため他のクラス参観、教師の交換など研究の手立ても日々のクラス運営の中に含まれている。余裕の時間を設けて短時間ではあるが、個人研究のすすめと研修手段を全教員と打ち合わせを行い、年間目標に沿った個人研究をすすめ、年度末にはアソカ6ヶ園の代表教師が個人発表をする場を設けている。

⑦外部アンケート	回答率が89%になり、回答内容も概ね良好である。
----------	--------------------------

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子どもの心がわかる教師と教師の思いが理解できる子どもとの間にすばらしい“心の通い”が生まれ、押し付け保育をなるべく無くし、子どもの自主活動を教師が見守る形の保育がすすめられた。

また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、絶えず新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。 園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるよう環境作りを行う。
物を大切にす	先ず教師自身が物を大切にする行動に心がけ、ひとつの輪ゴムも拾い、廃材や新聞紙を使った製作を取り入れるなど、素早くエコの心を身につけていた。
心の通い合い	担任だけでなく、全職員が園児一人ひとりを見つめ良い所を認めていけるよう、園庭あそび、通園バス、学年での活動や担任交代などで園児と触れ合い、様子を伝えあっている。 また、園児も担任以外でも気軽に接することが出来るよう、環境作りを行っている。

アソカ学園 駅南幼稚園 事業報告 平成22年度

平成21年度は、次の点に重点をおいて事業に取り組んだ

- * 幼稚園での園児の活動理解をしてもらうため、定期的に廊下に活動の様子を写真で掲載した
- * 園での活動を広く地域にってもらうためのアソカの園・HPの充実
- * 更に保護者との連絡を取り合い、子どもの様子を伝えていった。(送迎時・手紙・電話等)

実施事業の概要は以下の通りである。

実施日	事業	参加者	
		保護者	園児
4月5日	始業式:対面式(年中・年長の保護者参加)	138名	138名
4月8日	入園式(新入園児と保護者)	55名	55名
4月20日	父母の大会第一回理事会	23名	23名
4月23日	親睦会(星)	90名	90名
4月27日	親睦会(桃)	60名	60名
4月28日	親睦会(梅)	69名	69名
5月20日	アソカ学園父母の会総会	60名	
6月9日	父母の会サークル活動	30名	
6月15日	カレーパーティー	80名	218名
6月19日	父親を主体とした参観会	250名	218名
7月6日	七夕音楽会	250名	218名
7月13日～ 7月16日	希望個人面談	130名	130名
8月1日	夏まつり	500名	219名
9月11日	運動会	450名	220名
10月20日	ゆうぎ会衣装打ち合わせ	205名	220名
10月23日	浜私幼親子ふれあいフェスティバル	200名	180名
11月6日	ゆうぎ会	500名	220名
11月16日	父母の会サークル活動	30名	
12月1日	餅つき	50名	215名
12月11日	父母の会主催のバザー	230名	200名
1月22日	さくひんてん	500名	220名
2月1日	父母の会サークル活動	35名	35名
2月16日	アソカ学園ドッチボールフェスティバル	80名	89名
2月21日	参観会(星組)	89名	92名
2月25日	参観会(梅組)	75名	70名
2月28日	参観会(桃組)	65名	62名
3月13日	卒園式	200名	89名
3月20日	アソカ学園謝恩会	23名	

平成22年度 学校関係者評価

平成23年3月8日
アソカ学園 城北幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考えを統一する事で入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に教育・教員の質の向上に努めていく。
子どもの基礎体力づくりの取り組み。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	園の計画方針をおおむね理解し、子どもに良い保育環境を整えることを心掛け日々努力してる。
②保育のあり方 ・幼児への対応	教師として、自分のクラスはもちろんのこと、園全体の幼児にも目を向け自信を持って、対応し保育している。
③教師として資質 能力、適正等	教師としての良識と意欲を持って組織の一員として責任ある行動ができています。
④保護者への対応	保護者の意見・要望・相談等、適切に対応しているがいつもの努力が必要である。保護者も園、職員に対して協力的である。
⑤地域の自然や社会との 関わり	地域社会との関わりが少ないのが現状である。子育て支援について考える必要がある。
⑥研修と研究	諸団体による研修にはできる限り参加している。研究推進園として、充実した研究ができた。
⑦外部アンケート	好意的な回答98%を占め、幼稚園の現状に満足している結果になりましたが2%については真摯に受け止め今後の教育活動に生かしていきたい。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園内研修や終礼時等を通して、職員間で話し合いの時間を持つことで共通理解を得ることが出来るようになってきている。子どもの発達を促しながらよりよい体力づくりができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程の共通理解を図る	教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、保育に生かすよう話し合いを行っていく。
安全管理の充実	園庭の遊具や園舎内の安全に対する意見交換をし、職員間の共通理解を深め、いっそうの安全な環境に備える。
保護者や地域住民に幼稚園の活動を知ってもらい子育て支援につなげる	幼稚園での活動情報をホームページや手紙等で知らせていくと共に地域の未就園児に体験や園庭開放等子育て支援につなげていく。
教師の資質・能力の向上	園内研修テーマに沿って、子どもの見取りとその内面理解について研修・研究を行っていく。また、専門知識や技能を身につける。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

特に保育・行事・その他について、指摘すべきことはなく、高く評価出来ると思います。今まで通りの先生方の指導力、及び研究心に期待します。

平成22年度 自己評価書

平成23年3月4日
アソカ学園 城北幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考えを統一する事で入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に教育・教員の質の向上に努めていく。
子どもの基礎体力づくりの取り組み。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	園の計画方針をおおむね理解し、子どもに良い保育環境を整え、子どもの体力作りを心掛け日々努力している。
②保育のあり方 ・幼児への対応	教師として、自分のクラスはもちろんのこと、園全体の幼児にも目を向け自信を持って、対応し保育している。
③教師として資質 能力、適正等	教師としての良識と意欲を持って組織の一員として責任ある行動ができています。専門知識や技能をより高めたい。
④保護者への対応	保護者の意見・要望・相談等、適切に対応しているがいつもの努力が必要である。保護者も園、職員に対して協力的である。
⑤地域の自然や社会との 関わり	地域社会との関わりが少ないのが現状である。子育て支援について考える必要がある。園外体験学習は多い。
⑥研修と研究	諸団体による研修にはできる限り参加している。園内研修の時間の確保が難しい。
⑦外部アンケート	好意的な回答98%を占め、幼稚園の現状に満足している結果になりました。2%については真摯に受け止め今後の教育活動に生かしていきたい。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園内研修や終礼時等を通して、職員間で話し合いの時間を持つことで、保育活動への共通理解を得ることが出来た。子どもの発達を促しながらよりよい環境と基礎体力づくりができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程の共通理解を図る	教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解を図り、保育に生かすよう話し合いを行っていく。
安全管理の充実	園庭の遊具や園舎内の安全に対する意見交換をし、職員間の共通理解を深め、いっそうの安全な環境に備える。
保護者や地域住民に幼稚園の活動を知ってもらい子育て支援につなげる	幼稚園での活動情報をホームページや手紙等で知らせていくと共に地域の未就園児に体験や園庭開放等子育て支援につなげていく。
教師の資質・能力の向上	園内研修テーマに沿って、子どもの見取りとその内面理解について研修・研究を行っていく。また、専門知識や技能を見につける。

アソカ学園城北幼稚園 事業報告 平成22年度

平成22年度は次の点に重点をおいて事業に取り組んだ。
 ※幼稚園での園児の活動を理解してもらうための園便りの充実
 ※園内研修の充実をはかり職員の資質向上に努める。
 ※園での活動を広く地域に知ってもらうためのアソカの園・HPの充実

の通りである。

実施日	事業	参加者	
		保護者	園児
4月5日(月)	始業式：対面式<桃組と星組の保護者参加	188	184
8日(木)	入園式<新入園児と保護者	200	99
9日~16日	個人面談	288	
28日(水)	父母の会第1回理事会	20	
15日(木)	参観会(梅組1・2)	49	49
16日(金)	参観会(梅組3・4)	45	45
19日(月)	参観会(星1・2)	63	63
20日(火)	参観会(星3・桃1)	65	65
23日(金)	参観会(桃2・3)	60	60
5月17日(月)	父母の会第2回理事会	20	
20日(木)	アソカ学園父母の会総会	113	96
6月14日(月)	父母の会第3回理事会	20	
19日(土)	運動会	946	286
29日(火)	コロッケパーティー	7	272
27日・28日	個人面談	261	
7月12日(月)	父母の会第4回理事会	20	
8月4日(水)	夏祭り	816	272
9月13日(月)	父母の会第5回理事会	20	
10月4日(月)	父母の会第6回理事会	20	
17日(日)	ゆうぎ会	858	286
23日(土)	浜私幼親子ふれあいフェスティバル	205	145
11月1日(月)	父母の会第7回理事会	20	
2月9日(水)	運動あそび参観会(星組)	93	93
12月4日(土)	作品展・父母の会バザー	861	287
13日(月)	父母の会第8回理事会	20	
12月21日(火)	もちつき	20	277
1月14日(金)	劇団「風の子」観劇	20	272
11日(火)	父母の会理事会9回理事会	20	
2月7日(月)	父母の会第10回理事会	20	
16日(水)	アソカ学園ドッジボールフェスティバル	67	89
	交通安全教室 年中・年少	0	180
18日(金)	// 年長		92
2月23日(月)	参観会(梅組)	101	98
21日(月)	リトミック参観会(桃組)	97	93
3月1日(火)	おわかれ会(星組)	96	92
2日(水)	父母の会第11回理事会	20	
3月16日(水)	卒園式	170	94
19日(土)	アソカ学園謝恩会	19	

平成 22 年度 学校関係者評価書

平成 23 年 3 月 10 日
アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』 ○ 人と人との触れ合い ○家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを次へとつなげる）
--

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	指導計画を基に、毎週の計画と反省を記入し、子どもの様子に合わせた修正もできている。
②保育のあり方 幼児への対応	職員一人一人が子どもの健康（心情を含む）、安全に関して注意深く見守っている。
③教師として資質 能力、適正等	保育者としての自覚を持って職務についている。組織の一員としても行動できている。
④保護者への対応	家庭との連携を考え、電話や連絡帳等伝え方を工夫している。職員全体の意識も高く、すべての項目で良好であった。
⑤地域の自然や社会との関わり	アソカ学園独自の農園へ出かけ、野菜の栽培を通して、そこで出会う自然に触れている。園外保育で色々な所へ出かけているので、周辺データの記録を検討している。
⑥研修と研究	研修の必要性を理解し、積極的に取り組んできている。研修会で学んだことを他の職員に、より詳しく伝える必要性を感じている。
⑦外部アンケート	回答率は 91%で、そのうち各項目の平均 98%以上が、「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」と良好であった。どちらも昨年より数値が上がり、高い数値であるので、保護者の意識が高く、協力体制が整っていると見える。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

毎日行う終礼で日々の出来事を取り上げケーススタディーする中で、教育要領と追分幼稚園の教育課程を再確認しながら共通理解を図った。また、情報交換をすることで、子どもの様子に合わせた修正もできた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
一人一人の保護者との連携を密にするために	これまでも4月と7月に希望個人面談を行い、いつでも相談を受ければ話し合いをしてきたが、保護者の子どもの気になるところなどをより幼稚園に相談しやすくなるように書面で聞く機会を設ける。
安全管理について	健康や安全に関する意識を高く持ちながら子ども達と接する事に加えて、そこで得た情報（危険な箇所や事例）を共有することを徹底する。
物的環境の再構成	新しい教材の導入や園庭遊具や芝生の使い方などこれまでの方法を再度見直し、より良いものを取り入れていけるような話し合いを頻繁に設ける。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

特に指摘すべき事項はなく、良好であると認められる。

平成 22 年度 自己評価書

平成 23 年 3 月 7 日
アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』 ○ 人と人との触れ合い ○家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを次へとつなげる）
--

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	指導計画を基に、毎週の計画と反省を記入し、子どもの様子に合わせた修正もできている。
②保育のあり方 幼児への対応	職員一人一人が子どもの健康（心情を含む）、安全に関して注意深く見守っている。
③教師として資質 能力、適正等	保育者としての自覚を持って職務についている。組織の一員としても行動できている。
④保護者への対応	家庭との連携を考え、電話や連絡帳等伝え方を工夫している。職員全体の意識も高く、すべての項目で良好であった。
⑤地域の自然や社 会との関わり	アソカ学園独自の農園へ出かけ、野菜の栽培を通して、そこで出会う自然に触れている。園外保育で色々な所へ出かけているので、周辺データの記録を検討している。
⑥研修と研究	研修の必要性を理解し、積極的に取り組んできている。研修会で学んだことを他の職員に、より詳しく伝える必要性を感じている。
⑦外部アンケート	回答率は 91%で、そのうち各項目の平均 98%以上が、「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」と良好であった。どちらも昨年より数値が上がり、高い数値であるので、保護者の意識が高く、協力体制が整っていると見える。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

毎日行う終礼で日々の出来事を取り上げケーススタディーする中で、教育要領と追分幼稚園の教育課程を再確認しながら共通理解を図った。また、情報交換をすることで、子どもの様子に合わせた修正もできた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
一人一人の保護者との連携を密にするために	これまでも4月と7月に希望個人面談を行い、いつでも相談を受ければ話し合いをしてきたが、保護者の子どもの気になるところなどをより幼稚園に相談しやすくなるように書面で聞く機会を設ける。
安全管理について	健康や安全に関する意識を高く持ちながら子ども達と接する事に加えて、そこで得た情報（危険な箇所や事例）を共有することを徹底する。
物的環境の再構成	新しい教材の導入や園庭遊具や芝生の使い方などこれまでの方法を再度見直し、より良いものを取り入れていけるような話し合いを頻繁に設ける。

平成22年度 アソカ学園 追分幼稚園 事業報告

平成22年度は、次の点において事業に取り組んだ。

- ◆ 園での活動を広く地域に知ってもらうため、アソカの園・HPの充実・掲示板を使った活動報告、おたより等を充実
- ◆ 防災・防犯に関する備品・組織などの再整備

実施事業の概要は以下の通りである。

実施日	事業	参加者数	
		保護者	園児
4月5日	始業式・対面式	193	193
4月8日	入園式	120	87
4月22日	父母の会第一回理事会	26	-
5月11日	年中児参観会（もも1）	32	32
5月12日	年中児参観会（もも2）	33	33
5月13日	年中児参観会（もも3）	34	34
5月18日	年少児交流会	82	82
5月19日	アソカ学園父母の会総会	45	-
6月1日	じゃがいも堀り	20	86
6月7日	父母の会サークル活動	23	-
6月9日	カレーパーティー	40	273
6月19日	父親を主体とした参観会	320	271
7月1日	招待児七夕まつり	120	145
7月7日	七夕音楽界	310	273
7月9日	父母の会サークル活動	23	-
7月22.23日	個人面談（希望者）	150	-
8月1日	夏まつり	420	267
9月8日	父母の会理事会	21	-
9月18日	運動会	570	283
10月8日	父母の会サークル活動	20	-
10月13日	ゆうぎ会衣装打ち合せ（年長児）	91	91
10月14日	ゆうぎ会衣装打ち合せ（年少児）	82	82
10月23日	浜松私立幼稚園協会 親子ふれあいフェスティバル	50	70
10月27日	父母の会理事会	21	-
11月7日	ゆうぎ会	800	280
11月16日	父母の会サークル活動	20	-
11月17日	芋ほり（参加希望保護者）	21	191

11月19日	年中児リトミック参観（桃1.3組）	57	58
11月26日	年中児リトミック参観（桃2組）	25	26
11月30日	大根堀り	50	268
12月14日	餅つき（参加希望保護者）	50	263
1月16日	作品展	550	273
1月19日	おじいちゃんとおばあちゃんの交流会	90	270
2月8日	父母の会サークル活動	16	-
2月16日	アソカ学園 ドッジボールフェスティバル	60	91
2月18日	年少児参観会（梅組）	95	86
2月22日	年中児参観会（桃組）	104	104
2月23日	父母の会理事会	20	-
3月2日	招待児ひなまつり会	60	83
3月7日	年長児会食会（星1組）	31	30
3月8日	年長児会食会（星2組）	32	31
3月9日	年長児会食会（星3組）	30	28
3月16日	卒園式	130	91
3月19日	アソカ学園謝恩会	20	-

平成22年度 学校関係者評価書

平成23年 3月 3日

アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

【ともに育ち合いながら】の園テーマのもと園運営した。
恵まれた環境の中で、五感を通してあそび、発見や出会いを繰り返しながら、ともに育ち合い、豊かな感性と健康な心身を育てる。また、子供たちが安心して安全な園生活の中で育めるよう、環境構成や教師の関わり等に重点を置き保育実践した。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	各学年ごとの指導計画を常に参照し、また、新しいあそびや企画を創造しながら日常の保育に当たったが、より深く保育を探究する点が欠けたので、次年度への課題とする。
②保育のあり方 ・ 幼児への対応	園児の健康視診や適切な言葉かけ、保育中の出来事など、職員間の情報交換を密にし、チーム保育の充実を図った。
③教師としての資質 能力、良識、適正等	全教員とも概ね良好ではあるが、体調不良の教員（休職）を出し保護者に心配をかけた。
④保護者への対応	連絡ノートでの受け答えは明確にし、問題事項は上司の指示を仰ぎ電話で対応した。病気情報などは緊急連絡メールにて即時に通達し、保護者の配慮を促した。
⑤地域の自然や社会との関わり	子育て支援活動「キッズハウス」でも参加者が広域に広がり、園の立地や来園し易さもあり、地域における子育てセンター的役割も担うことができた。
⑥研修と研究	浜私幼研修「ごっこあそび」の研究では、職員間で話し合う時間がなかなか持てなかった。ごっこあそびの新しい概念等再考察する必要がある、次年度への課題とする。
⑦外部アンケート	全ての項目で概ね良好と認められたが、保護者対応の面で若干名から酷評があったので、次年度への課題とする。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

新築移転合併後の3年目で、開園時入園々児が年長児となり、園児、教職員とも園環境に慣れ安全に楽しく生活することができ、池エリア、芝生エリアなど恵まれた環境の中で、豊かな感性と健康な身体を育むことができた。また、東園庭を芝生化したことで、より一層園庭環境が整い、あそびも広がりを見せた。

課題に挙げていた指導計画の見直しは、各学年とも再考察し新しく構築することができ、それに基づき保育実践を重ねた。また、園の伝達と相談関連においてはホームページの更新を月2回とした。しかし、1学期終了時の希望者面談では、例年参加者が少ないので参加を促したが、参加者は少なく、園としては相談窓口のある事を保護者に周知しているが、今回もアンケート結果は低いので、保護者の求める「相談」とは・・・、要再考察。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園児がいきいきと遊べる環境づくりに努め、園児の健やかな育ちの為に、身体力を高める	恵まれた園環境のより良い活用に努めながら、「健やかな育ちの為に、 ^{からだびよく} 身体力を高める」あそびを充実させ、園児の総合的な健康づくりと豊かな情操を育めるよう努める。
浜私幼研修グループの研究課題（ごっこあそび）への研修取り組み	次年度は当園での公開保育もあるので、「ごっこあそび」の見識を高め、日常の保育でも「ごっこあそび」を頻繁にとりいれ、楽しんでいく。
園と保護者の相互理解を深める	保護者アンケート結果にあるように、園の様子の伝達と相談関連において、他項目より値が若干低い（昨年同様）ので、引き続き原因を探り改善に努める。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・多くの園児が園生活の中で心身ともに健全に成長しているので、おおむね良好な園運営がなされている。
- ・園児個々の習熟度の見取りや、年齢に応じた声掛けなど、今後も適切な指導を望む。
- ・園行事における保護者のマナーや保護者モラルに目を疑う場面も多く、保護者指導が望まれる。

平成22年度 自己評価書

平成23年 3月 1日

アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

【ともに育ち合いながら】の園テーマのもと園運営した。
恵まれた環境の中で、五感を通してあそび、発見や出会いを繰り返しながら、ともに育ち合い、豊かな感性と健康な心身を育てる。また、子供たちが安心して安全な園生活の中で育めるよう、環境構成や教師の関わり等に重点を置き保育実践した。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	各学年ごとの指導計画を常に参照し、また、新しいあそびや企画を創造しながら日常の保育に当たったが、より深く保育を探究する点が欠けたので、次年度への課題とする。
②保育のあり方 ・ 幼児への対応	園児の健康視診や適切な言葉かけ、保育中の出来事など、職員間の情報交換を密にし、チーム保育の充実を図った。
③教師としての資質 ・ 能力、良識、適正等	全教員とも概ね良好ではあるが、体調不良の教員（休職）を出し保護者に心配をかけた。
④保護者への対応	連絡ノートでの受け答えは明確にし、問題事項は上司の指示を仰ぎ電話で対応した。病気情報などは緊急連絡メールにて即時に通達し、保護者の配慮を促した。
⑤地域の自然や社会との関わり	子育て支援活動「キッズハウス」でも参加者が広域に広がり、園の立地や来園し易さもあり、地域における子育てセンター的役割も担うことができた。
⑥研修と研究	浜私幼研修「ごっこあそび」の研究では、職員間で話し合う時間がなかなか持てなかった。ごっこあそびの新しい概念等再考察する必要がある、次年度への課題とする。
⑦外部アンケート	全ての項目で概ね良好と認められたが、保護者対応の面で若干名から酷評があったので、次年度への課題とする。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

新築移転合併後の3年目で、開園時入園々児が年長児となり、園児、教職員とも園環境に慣れ安全に楽しく生活することができ、池エリア、芝生エリアなど恵まれた環境の中で、豊かな感性と健康な身体を育むことができた。また、東園庭を芝生化したことで、より一層園庭環境が整い、あそびも広がりを見せた。

課題に挙げていた指導計画の見直しは、各学年とも再考察し新しく構築することができ、それに基づき保育実践を重ねた。また、園の伝達と相談関連においてはホームページの更新を月2回とした。しかし、1学期終了時の希望者面談では、例年参加者が少ないので参加を促したが、参加者は少なく、園としては相談窓口のある事を保護者に周知しているが、今回もアンケート結果は低いので、保護者の求める「相談」とは・・・、要再考察。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園児がいきいきと遊べる環境づくりに努め、園児の健やかな育ちの為に、身体力を高める	恵まれた園環境のより良い活用に努めながら、「健やかな育ちの為に、 ^{からだびよく} 身体力を高める」あそびを充実させ、園児の総合的な健康づくりと豊かな情操を育めるよう努める。
浜私幼研修グループの研究課題（ごっこあそび）への研修取り組み	次年度は当園での公開保育もあるので、「ごっこあそび」の見識を高め、日常の保育でも「ごっこあそび」を頻繁にとりいれ、楽しんでいく。
園と保護者の相互理解を深める	保護者アンケート結果にあるように、園の様子の伝達と相談関連において、他項目より値が若干低い（昨年同様）ので、引き続き原因を探り改善に努める。

平成22年度 アソカ学園 美波幼稚園 年間事業報告

園テーマを『共に育ちあいながら』とした。

屋内・屋外の恵まれた環境をより良く活用し、充実した教育活動ができるよう取り組んだ。

園児が安全で安心して園生活を送れるよう、保育に取り組んだ。

実施日	事業	参加者	
		保護者	園児
4月5日	始業式・対面式(年中・年長への進級児保護者参加)	122名	124名
4月8日	入園式(新入園児と保護者参加)	131名	69名
4月21日	父母の会理事会	20名	
4月28日	年長組参観会	67名	68名
4月30日	誕生会	20名	186名
5月12日	年中組参観会	54名	54名
5月17日	父母の会理事会	19名	
5月19日	年少組参観会	66名	67名
5月20日	アソカ学園父母の会総会	37名	
5月28日	誕生会	16名	189名
6月14日	父母の会理事会	20名	
6月17日	じゃがいもパーティー(招待児親子含む)	116名	186名
6月20日	父の日参観会	234名	188名
6月21日	父母の会主催サークル(エブリーテニス)	29名	
6月25日	誕生会	22名	192名
6月25日	父親座談会	26名	
7月1日	招待児七夕音楽会	130名	190名
7月7日	七夕音楽会	240名	193名
7月12日	父母の会理事会	19名	
7月16日	誕生会	15名	188名
7月27日	希望者個人面談	35名	
7月28日	平成21年度卒園児同窓会		61名
7月31日	夏まつり	450名	190名
8月3日	誕生会	23名	183名
9月13日	父母の会理事会	19名	
9月18日	運動会	450名	195名
9月24日	誕生会	16名	
10月4日	父母の会主催サークル(コーヒーの淹れ方教室)	26名	
10月5日	造形あそび参観会(年少)	65名	65名
10月13日	父母の会理事会	20名	
10月15日	交通安全教室	6名	190名
10月20日	遊戯会衣装合わせ(年長・年少児保護者)	138名	
10月22日	誕生会	21名	194名
10月23日	浜私幼親子ふれあい子育てフェスティバル	131名	74名
11月14日	遊戯会	450名	193名
11月17日	父母の会理事会	18名	
11月26日	誕生会	13名	181名
11月30日	運動あそび参観会(年長)	60名	67名

平成22年度 アソカ学園 美波幼稚園 年間事業報告

実施日	事業	参加者	
		保護者	園児
12月1日	リトミック参観会(年中)	50名	52名
12月4日	父母の会主催バザー	360名	170名
12月6日	父母の会理事会	18名	
12月10日	誕生会	19名	183名
12月14日	マラソン大会	350名	186名
12月16日	餅つき(招待児親子含む)	82名	178名
1月14日	誕生会	15名	184名
1月19日	父母の会理事会	20名	
1月20日	招待児節分豆まき	68名	
1月29日	作品展	360名	184名
2月4日	父親座談会	16名	
2月7日	父母の会主催サークル(お楽しみ会)	21名	
2月9日	父母の会理事会	18名	
2月16日	アソカ学園ドッジボールフェスティバル(年長)	60名	70名
2月17日	お店屋さんごっこ(招待児親子含む)	74名	258名
2月18日	誕生会	19名	190名
2月28日	参観会(年中・年少)	115名	118名
3月1日	参観会(年長)	58名	60名
3月4日	誕生会・父母の会理事会	35名	185名
3月16日	卒園式	122名	71名
3月19日	アソカ学園謝恩会	21名	

平成22年度 学校関係者評価書

平成23年3月4日
アソカ学園百花幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

*健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

浜私幼の研究推進園に立候補し「子どもの発達や学びの連続性を考え保育に生かす」のテーマに沿う視点で園児たちの活動を援助していく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	教育課程に基づき、週日案を年間通して立て、十分に保育の反省もされている。
②保育のあり方 ・ 幼児への対応	研究を行うことで、テーマに沿った見方が出来るようになり、幼児理解が深まった。
③教師としての資質や 能力、良識、適正	教師として自覚と責任感を持ち、組織の一員としても行動できている。
④保護者への対応	保護者の意見、要望などは園長・教頭に連絡をし、適当な対応をしている。
⑤地域の自然や社会と の関わり	自然との関わりは“ももはなの森”で活動することで十分であると思う。地域の学校とは幼小連携が取れる環境になりつつある。
⑥研修と研究	浜私幼の研究推進園になることで、園内研究を重ね、協力園・自園の公開保育の開催・外部講師からのアドバイスをしていただき、充実した研究になっている。
⑦外部アンケート	自由参観・個人面談・ももはなカフェなど新しい企画が質問の答えに反映されていないのが残念。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

研究推進園になったことで、研究テーマを意識しながら毎日の保育に取り組む努力をし、幼児理解を更に深めようとする意識を全職員が持っている。また、テーマに沿った活動や援助の方法を数多く話し合うことで、様々な価値観・視点を学ぶことができ、保育者として育つ良い機会になっている。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者に幼稚園での園児の姿をもっと伝える努力をし、保護者同士で話し合える機会をつくる。	今年度から始めた「ランチパーティー」「自由参観会」、父母の会による「ももはなカフェ」を来年も企画し、園児の活動を保護者が見ることができる機会を更に提供して利用してもらうように呼びかける。
“ももはなの森”での園児の遊び・安全管理の共通理解	年毎に職員の異動があるが、全職員に“ももはなの森での遊び”が、必ずしも安全な遊びに限られていないことを常に意識し、園児の安全確保に努めていく。
浜私幼推進園の研究を勧めていく。	2年継続の研究なので、職員間で十分に目の前にいる子どもの活動を観察し、園児の内面を理解し適切な指導、援助ができる教師になれるように研究を重ねていく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

梅組の父親参観のパン作りや、星組による親子ドッジボール参観がとても楽しかったので、他の学年でも母親とも一緒に作る参観会や、親子で参加できる企画があると、親と親・子と子の、新しいつながりもでき、幼稚園での子どもたちの様子を保護者が見ることができる機会も増えるのではないかと思われる。

平成22年度 自己評価書

平成23年3月3日
アソカ学園百花幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

*健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

浜私幼の研究推進園に立候補し「子どもの発達や学びの連続性を考え保育に生かす」のテーマに沿う視点で園児たちの活動を援助していく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	教育課程に基づき、週日案を年間通して立て、十分に保育の反省もされている。
②保育のあり方 ・ 幼児への対応	研究を行うことで、テーマに沿った見方が出来るようになり、幼児理解が深まった。
③教師としての資質や 能力、良識、適正	教師として自覚と責任感を持ち、組織の一員としても行動できている。
④保護者への対応	保護者の意見、要望などは園長・教頭に連絡をし、適切な対応をしている。
⑤地域の自然や社会と の関わり	自然との関わりは“ももはなの森”で活動することで十分であると思う。地域の学校とは幼小連携が取れる環境になりつつある。
⑥研修と研究	浜私幼の研究推進園になることで、園内研究を重ね、協力園・自園の公開保育の開催・外部講師からのアドバイスをしていただき、充実した研究になっている。
⑦外部アンケート	自由参観・個人面談・ももはなカフェなど新しい企画が質問の答えに反映されていないのが残念。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

研究推進園になったことで、研究テーマを意識しながら毎日の保育に取り組む努力をし、幼児理解を更に深めようとする意識を全職員が持っている。また、テーマに沿った活動や援助の方法を数多く話し合うことで、様々な価値観・視点を学ぶことができ、保育者として育つ良い機会になっている。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者に幼稚園での園児の姿をもっと伝える努力をし、保護者同士で話し合える機会をつくる。	今年度から始めた「ランチパーティー」「自由参観会」、父母の会による「ももはなカフェ」を来年も企画し、園児の活動を保護者が見ることができる機会を更に提供して利用してもらうように呼びかける。
“ももはなの森”での園児の遊び・安全管理の共通理解	年毎に職員の異動があるが、全職員に“ももはなの森での遊び”が、必ずしも安全な遊びに限られていないことを常に意識し、園児の安全確保に努めていく。
浜私幼推進園の研究を勧めていく。	2年継続の研究なので、職員間で十分に目の前にいる子どもの活動を観察し、園児の内面を理解し適切な指導、援助ができる教師になれるように研究を重ねていく。

アソカ学園百花幼稚園 事業報告 平成22年度

平成22年度は 次の点に重点をおいて事業に取り組んだ。

- * 幼稚園で園児が園庭やももはなの森で遊ぶ様子を見てもらうために”自由参観会”を3日間開催した。
 - * 父母の会活動に”ももはなカフェ”活動と称して、園児と朝の自由遊びに参加してもらい その後、参加者と父母の会室で 子育ての情報交換ができる時間を提供した。
- 実施事業の概要は以下の通りである。

実施日	事業	参加者	
		保護者	園児
4月5日	始業式<対面式<桃組・星組の保護者参加>	215名	215名
4月8日	入園式<新入園児と保護者>	140名	105名
4月21日	父母の会第1回理事会	25名	—
4月23日	星組ランチパーティー	103名	103名
4月27日	桃組ランチパーティー	97名	97名
4月30日	梅組ランチパーティー	95名	95名
5月20日	アソカ学園父母の会総会	55名	—
5月28日	星・桃参観会	206名	206名
5月31日	桃参観会	105名	105名
6月10日	コロッケパーティー	25名	308名
6月19日	父親の日参観会	450名	318名
6月28日	父母の会<ももはなカフェ 1回目>	2汚名	—
7月6日	七夕音楽会	400名	317名
7月7日	招待児七夕音楽会	80名	169名
7月8日	星組保護者へ お泊り保育説明会	90名	—
7月12日	父母の会<ももはなカフェ 2回目>	11名	—
7月27日	個人面談(星・桃・梅)	210名	—
8月4日	夏祭り	500名	315名
9月18日	運動会	600名	321名
9月22日	父母の会<ももはなカフェ 3回目>	13名	—
10月12日から14日	自由参観会	350名	—
10月23日	浜私幼親子ふれあいフェスティバル	150名	130名
10月27日	星・梅組 ゆうぎ会衣装打合せ	216名	—
10月28日	父母の会<ももはなカフェ 4回目>	19名	—
11月13日	ゆうぎ会	600名	322名
11月30日	うんどう遊び参観会(星組)	97名	97名
11月26日	父母の会<ももはなカフェ 5回目>	18名	—
12月3日	リトミック参観会(桃組)	100名	103名
12月7日	マラソン大会	350名	308名
12月10日	造形あそび参観会(梅組)	97名	97名
12月14日	餅つき	43名	298名
1月15日	浜私幼新年教育懇談会	3名	—
1月22日	さくひんてん	500名	316名
1月31日	父母の会<ももはなカフェ 6回目>	14名	—
2月14日	観劇(劇団 風の子)	8名	314名
2月16日	アソカ学園ドッジボールフェスティバル	60名	105名
2月21日	参観会(星組)	204名	204名
2月24日	参観会(梅組・桃組)	—	—
2月28日	父母の会<ももはなカフェ 7回目>	11名	—
3月1日	父母の会理事会	24名	—
3月16日	卒園式	180名	106名
3月19日	アソカ学園謝恩会	24名	—

※毎月、誕生会を開催し 誕生月の保護者に参加してもらっている